

山陽小野田市ふるさとづくり協議会 令和6年度中学生市議会 報告書

令和6年8月5日（月）

午後2時30分～午後5時20分



主催：山陽小野田市ふるさとづくり協議会

議事日程

日程1 一般質問

1番 竜王中学校 濱岡 凱愛 議員、水野 瑛麻 議員

- ・学校のトイレの快適化
- ・竜王校区の観光スポットについて
- ・山陽小野田市への定住促進について

2番 小野田中学校 田中 萌愛 議員、市川 亜沙美 議員

- ・映画館やスポーツ施設等の娯楽施設を増やす
- ・児童生徒の登下校や地域の方が安全に生活できるように、歩行者用のミラーを設置してほしい

3番 高千帆中学校 島野 航史 議員、西野 真央 議員

- ・中学生の生活環境の充実について
- ・たくさんの方が来たくなる山陽小野田市にするために
- ・子育て世代に優しい山陽小野田市にするために
- ・災害時の避難場所について

4番 厚狭中学校 木本 春馬 議員、鳥井 咲来 議員

- ・山陽小野田市の強みを生かした市の活性化について
提案 1. きらら交流館のリニューアルを機会に、官民の力を合わせた山陽小野田の魅力発信の拠点に
提案 2. 小野田湾岸道路の整備の推進について
- ・市の防災対策の整備計画及び事業はどのように進められているのでしょうか

5番 厚陽中学校 森本 琴美 議員、志田 優佳 議員

- ・少人数の学校への支援を増やしてほしい
- ・水泳の授業を市民プールで行いたい
- ・ジェンダーレスについての施策

6番 埴生中学校 山下 凱斗 議員、山本 陽里 議員

- ・市政参画へのきっかけづくりの充実
- ・ボランティア活動の推進のために必要なこと

議長感想 篠原 希美 議長、藤井 瑛慎 議長

日程2 講評

山陽小野田市長、山陽小野田市議会議長、山陽小野田市教育委員会教育長

日程3 主催者お礼 山陽小野田市ふるさとづくり協議会会長

日程1 一般質問・答弁要旨

1番 竜王中学校 濱岡 凱愛 議員、水野 瑛麻 議員



《質問事項》

- ・学校のトイレの快適化
- ・竜王校区の観光スポットについて
- ・山陽小野田市への定住促進について

《市からの回答》

・学校のトイレの快適化

(矢野教育次長)

令和6年3月31日現在、本市における教職員トイレを除いた市内小中学校のトイレの洋式化率は35.1%となっており、文部科学省が公表しております、山口県の平均47.2%と比べても、低い状況となっております。学校のトイレの洋式化、快適化につきましては、児童生徒の皆さんだけでなく、保護者や地域の方々からも強く要望をされているものと認識していることから、学校施設の維持管理等に関する限られた予算の中で、順次、和式便器を洋式便器に取り替えることで洋式化を進めており、当面は50%を目標としているところであります。

なお、近年の校舎の建て替えや大規模な改修を行った箇所につきましては、全てのト

イレに洋式便器を設置することとともに、従来の水をまいて掃除を行うタイル式ではなく、クリーナー等で床をふいて掃除を行うシート式を設置しているところです。児童生徒の皆さんには快適な学校生活を送っていただけるよう、今後も引き続き予算確保に努め、洋式化に取り組んでまいります。

・竜王校区の観光スポットについて

(篠原協創部長)

竜王校区の観光スポットについて、きららビーチにある幸せの鐘について御回答申し上げます。

観光スポットとしての幸せの鐘の認知度は、まだまだ高くないと感じております。現在、観光に関する情報の発信につきましては、山陽小野田観光協会の公式インスタグラムを中心に行っております。この情報の発信につきましては、今年4月に地域おこし協力隊として着任しました西広ショータさんにもお手伝いを頂いているところでございます。最近、リール動画での投稿にも力を入れており、山口県のガードレールが黄色い理由の投稿は、26万回を超える再生回数となっております。

山陽小野田観光協会といたしましても、幸せの鐘も同様に、動画での投稿を織り交ぜたPRを行うことのほか、秋には、インスタグラムを活用した観光プロモーション事業を実施することを予定しております。この中で幸せの鐘も題材として取り上げることといたしております。引き続き、山陽小野田をより多くの人に知ってもらうために、SNSを活用した積極的な観光情報の発信を行うことと併せまして、そこにまつわる由来や物語を添えることで行ってみたい、訪れてみたいと思わせるよう、より魅力が引き出せる形での情報発信に取り組んでまいりたいと考えております。

くぐり岩周辺につきましては、干潮時にしか近づくことができない場所となっております。御質問にありました、戻れなくなった事故が発生したことを聞き、すぐに注意喚起の看板を設置いたしました。設置した看板には、具体的な満潮、干潮時刻の案内ができていないという状況にございました。

このたびの質問で御提案がありましたとおり、注意喚起の看板にあわせまして、その日の満潮、干潮時刻が確認できるよう気象庁のホームページが閲覧できるQRコードを表示したところでございます。引き続き、訪れる方が安心して観光できるように努めてまいりたいと考えております。

・山陽小野田市への定住促進について

(藤田市長)

6月議会の内容をベースに、数値データをもとに、市の将来像を想像し、人口減少に対して、中学生としての課題を捉えていただいているということに大変感銘を受けたところでございまして、また市政に関心を持っていただいているということに感謝申し上げます。

第2次総合計画中期基本計画を策定した際に、全市民を対象に行ったアンケート結果におきましては、本市に住み続けたいと思う市民の割合が77%でありましたが、高校生に限定して行ったアンケート調査におきましては、就職を希望する方のうち市内への就職希望率は、13.3%にとどまっています。就職希望先として市内が選ばれなかった理由といたしましては、「希望する就職先がないから」が最も高く35%となっております。進学や就職を機に市外に出られる方が多いのも事実であり、市外に転出された方が本市に戻ってこない理由として、就きたい仕事は本市で見つけられない状況がうかがえると

ころでございます。市といたしましては、企業誘致を積極的に行うなど、働く場の確保に努めているところでございます。

また、就職を希望される職種を見てみると、本市に働く場所のある職種が大半を占めているという事実もでございます。市内事業所に関する情報周知の必要性を強く感じているところであり、今後はふるさとで働きたいという方々とのマッチングという観点を踏まえ、さらなる情報発信を進めてまいりたいと考えております。

また本市におきましては、20歳代から40歳代の子育て世代の方々に移住定住していただく施策を進めております。中学生までの医療費の無償化や妊娠時、出産時にそれぞれ5万円を支給する制度に加えまして、本市独自の施策として県内では大変珍しい、小学校入学時、中学校入学時にそれぞれ5万円を支給する入学祝い金制度等を実施しているところでございます。このように本市出身者を含めて、1人でも多くの方に山陽小野田市に住んで頂くためには、市の魅力を発信することが大切であるため、移住フェアへの出展や移住を検討している方に実際に暮らしを体験してもらい、山陽小野田市の住みよさを感じてもらおう場をつくるように努めております。

実際に昨年度の移住定住相談件数は800件を超えております。お試し暮らしの参加者からは、「利便性がよくて住みやすい」、「地域の方が温かい」、「住んで子育てをするイメージができた」といった感想を頂いております。一方で、デジタル社会の進展で働き方も多様化しております。コロナ禍を経て、出勤しなくても自宅で仕事をするテレワークの働き方が一般的になっております。山陽小野田市から転出しなくても、今住んでいる自宅から仕事ができるということにもなります。皆さんがふるさとに戻り、働くことを考えるときに、テレワークという働き方があることも選択肢の一つに入れていただければ幸いです。

《再質問》（濱岡議員）

先ほどの提案の一つ目の学校のトイレの快適化について再質問いたします。

奈良県の生駒市という場所では、ふるさと納税を活用して小学校設備事業として、約5000万円ものふるさと納税を集めて生駒市市内の全ての小学校のトイレの洋式化を行い、さらに学校施設の補修や市の運営事業をする取組が行われております。

本市はふるさと納税に力を入れている市だと考えます。実際に本市は、ふるさと納税アワード令和6年度に選出されており、全国の中でも特にすぐれた取組を行っている自治体だと思います。このように、ふるさと納税を活用した事業を本市でも取り入れてみてはどうでしょうか。

《市の回答》（古川副市長）

再質問頂きました学校のトイレの快適化について、山口県全体が全国でも遅れているその中でも、山陽小野田市は低い率ということでございます。先ほど再質問の中で、ふるさと納税を活用した奈良県の生駒市の例を提示していただきました。本市もふるさと納税には力を入れておりますので、先進地の生駒市の事例をよく研究していきたいというふうに考えます。

《再質問》（水野議員）

二つ目の観光スポットについて、先日、竜王中学校の生徒会は「海辺の駅そらうみ」の工事を担当するNSP設計とシティーセールス課と話し合う場がありました。「海辺の駅そらうみ」の中には、地域を紹介するブースがあるということだったので、そう

いったのも活用していけば良いのではないかと考えますが、どのように思われますか。

《市の回答》（篠原協創部長）

「海辺の駅そらうみ」につきましては、これまでのきらら交流館をリニューアルして、令和8年度にリニューアルオープンする予定としております。その中で、情報発信のPRコーナーもしっかりありますので、焼野海岸一帯、あるいは竜王山、本山地区全体、竜王地区全体の情報発信、それに併せて山陽小野田市全体の情報発信の拠点として、しっかり活用していく計画としておりますので、御期待頂きたいと思っております。



《質問事項》

- ・映画館やスポーツ施設等の娯楽施設を増やす
- ・児童生徒の登下校や地域の方が安全に生活できるように、歩行者用のミラーを設置してほしい

《市からの回答》

- ・映画館やスポーツ施設等の娯楽施設を増やす
(桶谷経済部長)

御質問の映画館につきまして御回答申し上げます。

御提案頂きましたとおり、映画館は市民の方々に楽しんで頂ける娯楽施設であるとともに、市外から多くの集客が見込める施設でございます。映画館を誘致すれば、市内外の人々が映画館に足を運ぶことによりまして、まちの活性化にもつながると考えられます。一方で、設置に当たりましては、他の映画館と競合しないか、どれくらいの集客が見込めるか、そして建設費用はどのぐらいかかるのかなど、慎重に調査検討しなければならない点が多くございます。また、最近は映画やドラマなどをインターネットで視聴できるツールが充実しており、わざわざ映画館へ行かなくても自宅で視聴する方も多いのではないのでしょうか。

いずれにしても、映画館の設置は、民間事業者が主体で取り込まれることとなりますので、中学生の皆さんが期待されているということ、大型商業施設を運営してい

らっしゃいます、小野田商業開発株式会社様へお伝えをしたいと思います。

また、先ほど議員さんお示しの大型商業施設では人気や話題性のある商品を期間限定で販売するポップアップストアやサーカスなどのイベントの開催にも取り込まれていらっしゃいます。この施設は市内のみならず、市外からも多くの方が訪れる県内屈指のショッピングセンターでございます。今後も市民の皆様や市外からのお客様にも楽しんで頂けるようなイベント等が実施できるよう、市もできる限り協力をしていきたいと考えております。

(篠原協創部長)

「家族や友人と一緒に楽しめるスポーツ施設をつくってはどうか」ということについての御回答を申し上げます。

本市には、家族や友人と一緒に楽しみ、利用できるスポーツ施設が幾つかあります。その施設の使用の際には、施設利用の予約が必要であり、使用料も必要となるものがほとんどでございます。市民体育館におきましては、卓球やバドミントンなどの道具を有料で貸出しており、手ぶらでスポーツを楽しむことができます。また、市役所の文化スポーツ推進課におきましては、ボッチャやモルックといったニュースポーツの道具を無料で貸出しておりますので、御家族や友人とスポーツを楽しんで頂きたいと思っております。

一方で、おのサンサッカーパークの広場や壁当て、いわゆるスポーツウォールやそのほか市内の公園内にある健康遊具やバスケットゴールなどは、施設の利用の予約や申請をすることなく利用することができます。本市におきましては、御提案のありました皆さんが楽しみ、様々なスポーツが体験できる施設の整備につきましては、現時点で具体的な計画はございませんが、御家族や友人と一緒に参加しやすいスポーツ教室や講座などを開催していきたいと考えております。

特に、おのサンサッカーパークにおきましては、サッカー以外の様々なイベントを企画、実施しています。これらの体育施設の情報やスポーツに関するイベントや教室の開催につきましては、ホームページで情報発信しておりますし、市の公式LINEなどSNSを通じてもお知らせをしておりますので、御確認頂き利用していただきたいと思います。

- ・児童生徒の登下校や地域の方が安全に生活できるように、歩行者用のミラーを設置してほしい

(井上建設部長)

小野田中学校付近の通学路の安全対策に関する御質問について回答いたします。

ただいまお話にありました道のうち、ドラッグストア前を東西に走る片道 2 車線の大通りは「市道公園通り丸河内線」と言います。また、ドラッグストア斜め向かいの細い道は、「市道北若山東線」と言います。御指摘の交差点につきましては、先週の金曜日、8 月 2 日に開催された小野田中学校区の合同通学路安全パトロールで、議員さんや生徒会役員の方にも参加していただいて現地の状況を確認し、安全対策について協議いたしました。

パトロールの中で分かったことは、現場の交差点には既にミラーが設置してありますが、御指摘のとおり、細い道「市道北若山東線」から大通り「市道公園通り丸河内線」に出る車は、大通りを走る車にばかり気をとられてミラーを確認せず、歩行者にあまり注意していない状況であることが分かりました。また、設置してあるミラーもかなり年数が経過して、映りが悪くなっていることも分かりました。

道路管理者である市の土木課と山陽小野田警察署とで話し合った結果、細い道側には停止線を引いて、歩道の手前で車に一旦停止させる対策をすること、大通りの歩道には交差点手前に飛び出し注意看板を設置して歩行者にも注意喚起をすること、あわせてミラーを新しいものに交換することで、歩行者の安全を図ることができるのではないかという結論になりました。今後、具体的な方法と時期について協議を進めてまいります。

なお、通学路の安全対策につきましては、PTAの方や小中学校の校長先生等の学校関係者、警察や道路管理者等の行政機関によって構成される山陽小野田市通学路安全推進会議で毎年議論し、年に一度、中学校区ごとに合同パトロールも実施しておりますので、通学路で危険だと思われる箇所がございましたら、先生に御相談の上、通学路安全推進会議の議題に上げていただけたらと思います。市といたしましては、今後も通学路の安全確保に努めてまいります。



《質問事項》

- ・中学生の生活環境の充実について
- ・たくさんの方が来たくなる山陽小野田市にするために
- ・子育て世代に優しい山陽小野田市にするために
- ・災害時の避難場所について

《市からの回答》

- ・中学生の生活環境の充実について
(篠原協創部長)

中学生の生活環境の充実についての「学習環境の充実」について回答いたします。

現在市内にあります地域交流センターにおきましては、夏休みと冬休みを中心に期間を限定して、小学生から大学生の皆さんが、快適な環境で自主的な学習に取り組めるよう、スタディルームを開設しております。このような中におきまして、御質問のありました自習スペースの増設につきましては、地域交流センターは地域の皆さんも様々な活動で利用されている施設でございますので、年間を通じてのスペースの常設とまではなりません。地域交流センターには、いつでも誰でも利用できるロビーや図書室、交流室などがありますので、これらのスペースで自学や実習などが可能ではないかと考えます。それぞれの地域交流センターにおきまして、部屋の広さや配置など、施設の状況が違いますので、事前に御確認を頂き、御利用頂ければと思います。

また、今年の4月にオープンいたしました、Aスクエア内の市民活動センターにおきましては、市民の皆さんが気軽に交流、活動できる交流ホールがございます。学生の皆さんが勉強する場としても無料で使用することができますので、こちらもぜひ御利用頂きたいと思います。

この度、御質問にありました自習スペースの確保ができるかどうかにつきましては、各地域交流センターや学校など関係部署との協議検討を進めてみたいと思います。

(井上建設部長)

地域の安全安心のためにも街灯を増設することはできないだろうか、という御質問について回答いたします。

街灯とは、夜や暗いときに、道路や公園などの広場等を明るくするための照明のことを指します。また街灯には道路の交通安全を図るためのものや公園や駐車場を照らすためのもの、さらには防犯のために設置する防犯外灯など、幾つかの種類があります。まず、市が管理する市道に設置している道路照明灯について、お話をさせていただきます。現在、市で管理している道路照明灯は、市内全域に270基あります。この大部分は、信号機がある大きな交差点やたくさんの人や車が通る道の横断歩道を照らすために設置しております。そのほかに、企業の皆様方がスポンサーになり、電気代や修繕代、修繕料を支払っていただいている道路照明灯が261基ございます。

また、市道に設置しております道路照明灯の多くは水銀灯や白熱灯で作られているため、小電力化や低コスト化を目指して、全ての道路照明灯をLED灯に交換する事業を今年度から始めたところでございます。人にも環境にも優しい道路照明灯の使用については、これからしっかり研究をさせていただきたいと思います。

なお、道路の電柱等に取付けられております街灯の多くは、地元の自治会が設置している防犯外灯になるかと思っております。防犯外灯は設置費用の一部を市が補助する制度もございますので、議員さんがお住まいになっているお宅の御近所で、暗いなど感じる道路がありましたら、保護者を通じて自治会長さんに相談するのも解決方法の一つになるかもしれません。

街灯は夜の歩行者や自動車の安全を守る大切な役割がございます。また、防犯にも効果がありますので、引き続き設置場所についてはしっかり考えながら、安全で安心して暮らせるまちづくりに努めてまいります。

(矢野教育次長)

中学生の生活環境の充実についての「予算の有効活用」について回答いたします。

本市におきましては、まちづくりの方向性を市民と行政が共有し、一体となって取り組むための指針となる長期的な計画として、「第2次山陽小野田市総合計画」を策定し、この計画に掲げる将来都市像「活力と笑顔あふれるまち」の実現に向けて、各分野の施策を体系化し、計画的な推進を図っております。市が実施する様々な事業は、この計画に基づくものとなっており、妥当性、有効性、あるいは効率性の観点から十分な審査を行い、優先順位を踏まえて、毎年度の予算を編成しております。

また、多額の財源を必要とする校舎等の施設及び設備の整備につきましては、中長期的な視点に立って計画的に実施しており、近年、本市では、総合計画の重点プロジェクトに位置づけられている学校のICT環境につきまして、積極的に整備を図ってきたところです。

本市の令和6年度の一般会計当初予算につきましては、会計の総額が326億5700万

円、教育費全体が約 21 億 6200 万円、会計総額に占める割合は約 6.6%、そして中学校費につきましては、学校管理費、教育振興費及び学校建設費の三つの区分から構成をされ、合計で約 2 億円、会計総額に占める割合は、約 0.6%となっております。中学校費の三つの区分をそれぞれ見てみますと、学校管理費では、事務用品の購入費、電気代、水道料等の光熱水費、施設設備の修繕料など、学校施設の維持管理に関する予算として、約 1 億 700 万円を計上しております。

次に教育振興費では、図書教材の購入費、タブレット端末やネットワークの運用管理費など、特定の分野の教育の振興を図るための予算として、約 8800 万円を計上しています。

そして主に校舎の新築、改築等に関する予算を計上する学校建設費におきましては、約 500 万円を計上しております。今後も特色ある教育内容の充実や教育環境の整備を図ることで、学校教育を推進してまいります。御指摘がありましたとおり、財源には限りがありますので、特別教室へのエアコン設置も含めまして、様々な事業の効果や必要性を十分に検討した上で、これを最大限有効に活用できるよう努めてまいりたいと思っております。

・たくさんの人が来たくなる山陽小野田市にするために

(桶谷経済部長)

「公共交通機関の充実」や「小野田駅、厚狭駅周辺の活性化」につきまして、御回答申し上げます。

議員御提案の公共交通機関の充実や小野田駅、厚狭駅周辺の活性化は市全体の活性化や魅力向上につながるものであり、市としましても大変重要であると考えています。一方で、人口減少や少子高齢化、マイカー利用者の増加によりまして、鉄道やバスなどの公共交通機関の利用者が減少しており、駅周辺を訪れる方も減少しています。そのため、以前は盛況であった駅前の商店街も残念ながら空き店舗が目立つような状況となっております。

このような状況の中、市では、公共交通に関するマスタープランであります「地域公共交通計画」に基づき、公共交通の利便性向上に取り組んでいるところでございます。具体的にはまず、厚狭駅のバリアフリー化を進めています。令和 2 年度からこの事業に着手をし、これまで新幹線側のエレベーター 3 基、在来線側のエレベーター 2 基と多機能トイレ等を整備しています。現在も工事を実施しており、完了後は、高齢者や障害のある方、ベビーカーを使用されている方も安全安心に移動できるようになります。

次に、デジタルサイネージの設置でございます。鉄道とバスの運行情報を示すデジタルサイネージを小野田駅やおのだサンパークなどに設置しています。鉄道とバス、それぞれの発着時刻が一目で分かるため、利用者が鉄道とバスのどちらで移動するのが最適かを判断するのに役立っています。

続きまして、駅周辺の活性化への取組について御説明します。一つ目は、空き店舗の活用を促進するための補助金の交付です。この空き店舗リニューアル補助金は、令和 2 年度に創設し、令和 5 年度までの 4 年間で、小野田駅周辺で 3 件、厚狭駅周辺で 3 件、合計 6 件の新規出店がございました。

二つ目は、駅周辺の商店街で行われるイベントに対する補助金の交付です。イベントにつきましては、厚狭駅周辺では、寝太郎まつりや厚狭花火大会、小野田駅周辺では、駅前ふれあい祭りが行われており、例年多くの方でにぎわっています。加えまして、令和 11 年 4 月には、厚狭駅近くに山口東京理科大学の新キャンパス開設が予定をされて

います。学部収容人数は 480 人であり、厚狭駅周辺の活性化の起爆剤としても大いに期待しているところでございます。

今後も御説明いたしました事業に加えまして、JR やバス事業者などと連携しながら、市内を移動しやすくするためのダイヤ調整を行うなど、公共交通の利便性向上に向けた取組を進めるとともに、空き店舗リニューアル補助金やイベント補助金を活用して、民間事業者による取組を促すなど、駅周辺の活性化に努めてまいります。

(井上建設部長)

山口東京理科大学周辺に大学生が楽しく過ごせる場所が増えるような開発を進めるべきではないか、について回答いたします。

議員御提案のとおり、理科大周辺に大学生が楽しく過ごせるような場所が増えて、この大学に進学したいなと思える学生が増えたら素晴らしいと思います。では、議員さんは、大学生が楽しく過ごせるような場所とは、具体的にどんなことを想像しておられるでしょうか。立派な図書館や美術館、それともおいしいレストランやカフェでしょうか。ひょっとしたらゲームセンターやカラオケ、大きなショッピングモール、あるいは大きな遊園地を想像しておられるかもしれません。

一方で、都市の開発はなかなか難しい課題もあります。その中でも一つ重要なことは、学生だけでなく、大学周辺地域にお住まいの皆さんにとっても住みやすい環境をつくるということでございます。なので、大学周辺を開発する際は、大学生が楽しく過ごせるスポットをつくるとともに、地域の皆さんが快適に過ごせる空間づくりにも心がける必要がございます。そういったまちづくりの基本的な計画を「都市計画」と言います。大学周辺の都市計画における基本的な方針といたしましては、良好な住居環境の形成に努めることとしております。皆様にとって住みやすい環境となるよう土地利用を規制しており、「用途地域」という規制によって建てられる建物、建てられない建物が決められています。

具体的に言うと、図書館や美術館などの文化施設は建てられます。レストランやカフェ、ファストフード店などの飲食店も建てることができます。スーパーマーケットやドラッグストアなどの中規模な小売店舗やスポーツジムも建てることはできますが、カラオケやゲームセンターなどの遊戯施設、遊園地、サンパークのような大型商業施設は建てることのできない地域になっています。いずれにせよ、理科大周辺にお店を建てて経営するのは、市ではなく、民間事業者の皆さんです。市では、理科大周辺で空き家や空き店舗を活用して、お店を開こうと考えている事業者さんに対する補助金制度があり、相談も受け付けておりますので、この制度を活用して新しいお店がどんどんオープンし、にぎわうようになれば、議員御提案のより魅力的なまちづくりが進むと思います。

最後に、「学生の間で山陽小野田市の魅力が広まれば、山陽小野田市に人が来るようになる」と考える」は、まさにそのとおりだと思います。市としての大前提は、大学周辺が地域の方々と学生とが共に住みよいまちになることを望んでおりますので、これからも皆様と一緒に取り組んでまいりたいと思います。

(篠原協創部長)

ゴルフ場を活用したイベントの開催につきまして御回答申し上げます。

本市には六つのゴルフ場があり、ゴルフ場を活用したイベントの開催につきましては、過去にはゴルフ場内での音楽イベントを開催したこともございます。ゴルフ場に限らず広い敷地を活用した大規模なイベントは、話題性もあり、多くの方が本市を訪れるきつ

かけにもなると考えております。

本市での大規模なイベントの開催につきましては、例年 10 月に行われます「スマイルハロウィンパーティー」を開催しております。これは、若者に人気のハロウィンに着目したイベントであり、昨年度は約 2 万 3400 人の御来場を頂き、本市のPRのほか、交流人口の増加を図ったところでございます。また、先月行われました「おのだ七夕まつり」や「厚狭花火大会」におきましても、2 万 5000 人から 3 万人の人が訪れ、大変にぎわっておりました。ほかにも、「お祝い夢花火」や「復活住吉まつり」など、地域の団体が主体となり、年間を通じて多くの人が集まるイベントが実施されているところでございます。今後も引き続き本市ならではの魅力あるコンテンツを用いたイベントを実施し、多くの人たちに本市をPRしていくとともに、訪れてもらえるよう取り組んでまいりたいと考えております。

なお、本市にはゴルフ場のほか、江汐公園や寝太郎公園ゆめ広場など広い敷地を有する公園もございます。このたび頂きました御意見も参考にさせていただき、様々な角度から企業や団体の皆様と協議し、多くの人を訪れるイベントについて検討してみたいと考えております。

・子育て世代に優しい山陽小野田市にするために

(井上建設部長)

「公園でのボール利用やインクルーシブ遊具の設置について」という御質問に対し、御回答いたします。

市内には大小 70 以上の公園緑地が整備されています。特に高千帆中学校区には、本市最大規模の都市公園であります江汐公園や有帆緑地などをはじめ、様々な街区公園もございます。さらには、高千帆運動広場といった施設が整備されている環境にもございます。

御質問の公園でのボール遊びについて少しお話をさせていただきます。公園でのボール遊びについてですが、市内全ての公園でボール遊びが禁止されているわけではありません。一部の公園では、過去にボールが隣接する住宅に飛び込んで庭木の枝を折ってしまったり、あるいは遊んでいた小さい子供に当たるなどの事故が発生しました。そのため、地元の自治会からの要望を受けて、ボールの制限を使用している公園もございます。

また、10 人以上のグループが公園を利用する際には、事前に施設利用の届出を頂くお願いしております。これは、他のグループと利用時間が競合しないようにしたり、草刈り作業とタイミングが重ならないようにするための配慮でございます。球技に限った取組ではないことを御理解していただきますようお願いいたします。

いずれにせよ、議員御提案のあらゆる世代が楽しみ、楽しめる公園を増やすためには、利用される方同士の思いやりとマナーがとても重要だと思います。その場の状況を考慮しながら適切に御利用頂きますようお願いいたします。

次に、インクルーシブ遊具の設置についてですが、私たちも芝生エリアやインクルーシブ遊具の設置が公園での多種多様な遊びを可能にし、障害のある方もない方も一緒に楽しんで公園を利用できる手段だと認識をしております。ここで、現在、公園の遊具の設置に関し、市が推進し取り組んでいるスマイルエイジングパーク事業について少し御紹介いたします。

スマイルエイジングパーク事業とは、誰もが笑顔で年を重ねていくことで、健康寿命の延伸を目指すスマイルエイジング事業の一環として、市内 4 か所の公園で、ウォーキ

ングコースの整備や健康遊具の設置を進め、市民の運動習慣のきっかけづくりのための環境整備を行う事業でございます。令和 2 年度には、須恵健康公園にウォーキングコースの再整備と健康遊具を 7 基整備し、さらに、令和 3 年度には、江汐公園と厚狭川河畔寝太郎公園ゆめ広場に、合わせて 12 基の健康遊具を設置しました。これらの健康遊具については、使用方法の動画配信のほか、今年度は須恵健康公園において、5 月から 11 月の期間で合計 6 回、健康遊具の体験会も開催しております。これらの取組を通じて、市民の健康増進を進めております。健康遊具は、中学生の皆さんの体力づくりや筋力アップにも役立つと思いますので、ぜひ活用してみてください。

そして 4 か所目となる現在計画中の糸根公園の再整備では、園路の改修や健康遊具の設置のほか、大型遊具の導入も検討しておりますので、多様な利用者に配慮できるインクルーシブ遊具の設置についても、実現できるよう前向きに検討させていただきたいと思っております。今後も市内の皆様からの御意見を大切にし、子育て世代はもちろん、全ての利用者が快適に過ごせる公園づくりや効果的な施設整備を努めてまいります。

(吉岡福祉部長)

「子育て世代を支援するための予算はどうなっているのか」、また「山陽小野田市としてはどのような形で子育て世代を支援しているのか」、「これからさらに充実させることは検討しているのか」について、御回答申し上げます。

まず、子育て世代を支援するための予算について説明をいたします。令和 6 年度の山陽小野田市の予算総額は約 326 億円でございます。このうち、子育て世代を支援するための予算は約 48 億円で、その割合は約 14.7%となっております。その主なものは、保育所に関連する経費が約 24 億 5000 万円、児童クラブに関連する経費が約 1 億 8000 万円、子育て世代への経済的な支援である児童手当が約 8 億 4000 万円。また、中学生までの医療費の助成が約 2 億 2000 万円となっております。それ以外にも子育て世代の支援施策として、小学校、中学校にお子さんが入学される際、保護者に対してお子さん 1 人につき 5 万円のお祝い金を支給しています。県内の市でこの入学お祝い金の事業を実施しているのは、山陽小野田市と他の 1 市だけとなっております。

また、子育て世代の誰もが気軽に立ち寄り、子育てに関する相談や助言、情報提供や交流促進を行い、妊娠期から寄り添った継続的な支援を各事業と連携して行うことで、児童虐待の発生を防止するなど、総合的な子育て支援がワンストップで行える拠点施設、スマイルキッズの運営などを行っております。県内でこのような拠点施設を運営しているのは 3 市ありますが、サービス内容では、山陽野田市のスマイルキッズが 1 番充実していると考えております。

今後子育て支援をさらに充実させるために、現在、3 歳児未満の保育所の保育料を、原則として同時入所の第 1 子がいる場合、第 2 子は保育料が半額、第 3 子以降は無償にしていますが、令和 6 年 9 月から、第 2 子以降の子供がいる世帯については、保護者の所得制限や同時入所要件を設けず、保育料無償化を実施し、さらなる保育料の負担軽減を図る予定としています。

また、児童手当について、現在、支給期間を中学卒業までとしておりますが、令和 6 年 10 月から 18 歳の年度末まで支給期間を延長するとともに、さらに子供が 3 人以上いる家庭には、児童手当を増額する予定としております。

市としましては、子育て世代への支援のために様々な施策を実施しておりますが、全国的には給食費や医療費、学費の補助などが充実している市もあります。今後の子育て世代に対する支援施策の充実については、将来、皆さんが子育て世代になったときに安

心して子育てができるよう、財源も含め総合的に勘案しながら進めてまいりたいと考えております。

・災害時の避難場所について

(辻村総務部長)

災害時の避難場所について、避難用タワーに関する部分についてお答えさせていただきます。

御質問のとおり、山陽小野田市は歴史的に干拓地を中心とした低地が多くなっています。また、海岸や河川には人工的につくられた堤防が多くあります。そのため、津波被害について、より広く警戒する必要があると考えて、高潮被害想定区域だけでなく浸水する可能性がある区域も、ハザードマップでお知らせしているために広く感じられている事があると思います。

この浸水被害の対策として、避難タワーの設置などが必要ではないかとの御質問ですが、このタワーは、高台や浸水域外の安全な場所まで避難するのに約 45 分以上かかる地域で、緊急的に一時避難する場所として活用する施設とされております。本市では、例えば南海トラフ巨大地震が発生したときには、最も高い津波が到達するまでに 240 分以上の時間があることから、市内に避難用のタワーを整備するのではなく、日頃から避難訓練など、いざというときの避難経路や避難場所の確認や河川の状況等の気象情報に注意して、適切なタイミングで避難行動をとっていただけるよう、出前講座などを通じてお伝えしていきたいと考えています。

市としましても、「山陽小野田市地域防災計画」を策定しており、災害からの逃げ遅れゼロを目指して、市民の皆さんが必要な防災情報を早く確実に入手できるよう、スマートフォンやテレビ、公式LINE、またはFMラジオ放送、防災ラジオなど様々な方法を活用して、提供していきたいと考えております。

また、令和 4 年度からリアルタイムで河川の水位や状況を確認するシステムを導入し、今年度には高潮被害や津波被害を確認するため、刈屋漁港と梶漁港に監視カメラを追加で整備しました。ぜひホームページから防災情報を見てみてください。この機会にぜひ、おうちの方と一緒に避難方法や避難場所について考えてみていただければと思います。

(吉岡福祉部長)

「ペットの避難について山陽野田市ではどのような対策が考えられているのか」について御回答を申し上げます。

市では災害が起きたときのペットの避難について、ペットの同行避難を受け入れる方針を定めています。具体的には、市が定めた「山陽小野田市避難所開設運営マニュアル」という手引の中に、ペットの管理に関する項目が含まれており、飼い主の責任を果たした上で一緒に避難していただくことができます。避難所でのルールは、居住スペース以外の場所でペットをゲージに入れていただくようにしています。この理由は、避難所では様々な人が共同生活を行うため、ペットの鳴き声やにおいなどで、ほかの人に迷惑をかけないように屋外のできるだけ居住スペースから離れた場所に避難していただくことで、ペットアレルギーを持つ方などにも配慮するものでございます。

また、ペットの同行避難に関する情報を市のホームページやチラシで周知をしています。同じ家族のペットを災害から守るため、日頃の備えやしつけ、災害時の対応について啓発し、共同生活を行う避難所内でのルールを守ることや他の避難者に迷惑をかけないように注意をする呼びかけをしています。皆さんも御家庭のペットと一緒にしっかり

避難できるよう、この情報を覚えておいていただきたいと思います。

最後に、これから大人になる過程でペットを飼う機会も増えてくるでしょう。そのときは必ず飼い主としての責任を忘れずに、災害への備えを考えてみてください。大切な家族であるペットを守るために、その備えが大切です。一緒に安心安全なまちをつくるため、これからも学び続けていただきたいと思います。

《再質問》（島野議員）

予算について、加えて質問します。本校では、授業等で1人1台のタブレットを活用する機会がとて多くなり、先ほど回答頂いたとおり、市が導入している教材を使っています。しかしその中には時間や利便性等の影響で活用できていない教材もあります。しかし、使っていないにもかかわらず、料金は発生しているため、限られた資金に無駄ができていますと考えます。そこで、今一度、各教材の使用状況の調査をするというのはどうでしょうか。うまく活用できていないものに関しては解約するなどの措置をとることで、ほかの場所に還元することができると思います。市の考えをお聞かせください。

《市の回答》（矢野教育次長）

御指摘頂きました、あまり活用されてない教材というのは、ある程度あるかと思えます。御指摘頂いたとおり、集計等をとる中で、その必要性について今一度、精査をしてまいりたいと思っております。



《質問事項》

- ・山陽小野田市の強みを生かした市の活性化について
提案 1. きらら交流館のリニューアルを機会に、官民の力を合わせた山陽小野田の魅力発信の拠点に
提案 2. 小野田湾岸道路の整備の推進について
- ・市の防災対策の整備計画及び事業はどのように進められているのでしょうか

《市からの回答》

- ・山陽小野田市の強みを生かした市の活性化について
提案 1. きらら交流館のリニューアルを機会に、官民の力を合わせた山陽小野田の魅力発信の拠点に

(篠原協創部長)

提案 1 のきらら交流館のリニューアルを機会に官民の力を合わせた山陽小野田市の魅力発信の拠点について御回答申し上げます。

きらら交流館につきましては、平成 13 年の建築から 20 年以上が経過し、施設や設備等が老朽化していることのほか、宿泊研修機能におきましても、近年の利用ニーズと乖離している状況にありました。このため、従来の施設の設置目的や機能にこだわることなく、大幅なリニューアルを計画し、先月 9 日に「海辺の駅そらうみ」とする基本設計の記者発表を行ったところでございます。この「海辺の駅そらうみ」におけるリニュー

アル後の施設の機能について御紹介いたしたいと思えます。

まずは玄関から続く位置に物品販売の店舗を設け、特産品などの買物ができるようにしています。また、眺めのよい海側のスペースを拡張し、レストランやカフェ、外売りのテイクアウトコーナーを設け、おいしい御当地グルメも食べられるように飲食機能を充実させています。温浴施設につきましては再整備を行い、落ちついた雰囲気でのデザインとするほか、海が望めるサウナも、その機能の充実を図り、リフレッシュできる温泉としています。休憩コーナーのほか、多目的での利用が可能な部屋も確保し、軽スポーツやミニイベントの開催もできるようにしております。

このように、グルメ、買物、温泉などが楽しめる機能がありますので、ドライブの合間の癒やしには最高のスポットになるものと考えております。また、施設の名称「そらうみ」のもとになりました、遮るもののない海と空の圧倒的なロケーションの中にある施設であり、そのほか周辺にあるくぐり岩や竜王山からも絶景が楽しめる場所であるとと考えております。

「海辺の駅そらうみ」は、御紹介頂きました七つの魅力、楽しみの全てが叶う施設として整備をしていくこととしております。近隣のきららガラス未来館をはじめとする施設や周辺の地域資源等を結びつけ、民間施設とも連携して、交流や体験のプログラムなども整え、「海辺の駅そらうみ」を拠点に、市の魅力の発信を行ってまいりたいと考えております。

・提案 2. 小野田湾岸道路の整備の推進について

(井上建設部長)

小野田湾岸道路の整備の推進についてお答えをいたします。

小野田湾岸道路や宇部湾岸道路は、市街地の慢性的な渋滞を解消するために、山陽自動車道小野田インターチェンジから小野田港や宇部港などの港、山口宇部空港、そして維新公園近くの山口市朝田までの区間を自動車だけが通ることのできる自動車専用道路で結ぶ「山口宇部小野田連絡道路」という計画の一部として、当時の小野田市と宇部市、山口市が一緒になって要望し、山口県が整備した県道です。

現在は、山口宇部小野田連絡道路の整備は一段落しており、小野田湾岸道路につながる、JR小野田駅西側を通る県道小野田山陽線の4車線化工事、JR小野田線南小野田駅のそばを通る、県道妻崎開作小野田線の拡幅工事を行っているところです。この二つの事業が完了すれば、さらに渋滞の緩和を図ることができ、焼野海岸など市内南部地区の観光資源へのアクセスは向上するものと期待をしております。

議員御提案の宇部湾岸道路を延伸して、山口宇部空港につながる道路の整備につきましては、必要性は十分に感じておりますけれども、整備にあたっては膨大な事業費がかかることが予想されるため、事業化への具体的な話には至っておりませんので、残念ながら同時に整備をという御要望は、今のところ難しそいでございます。本市といたしましては、まずは今整備中の二つの県道の早期完成を第一に、山口県と一緒に取り組んでまいりたいと考えております。

・市の防災対策の整備計画及び事業はどのように進められているのでしょうか

(辻村総務部長)

市の防災対策の整備計画及び事業の取組についてお答えします。

山陽小野田市は歴史的に干拓地を中心とした低地が多くなっており、高潮、津波や洪水被害の恐れがある土地柄ですが、これは山陽小野田市に限ったことではなく、我が国

は、河川が急勾配で、主要都市部でも海拔ゼロメートル地帯が多く、また、強い台風の通り道となっており、全人口の約 7 割が災害リスクのあるエリアに集中しているという特徴があります。

こうしたことから、どこにいても災害のリスクがあることを前提にして、発生したときの被害を最小限に抑える対策が大変重要と考えますが、この対策には、ハード対策、ソフト対策の 2 種類があります。本市では、山陽小野田市地域防災計画を定め、災害からの逃げ遅れゼロを目指して、ハード対策とソフト対策を進めています。

ハード対策は、例えば、堤防をつくったり、低い土地の水を排水するポンプ場をつくったりして、被害を少なくするものです。これらは、大規模な工事を伴うため、多くの費用と長い時間が必要になります。

現在の具体的な対策としては、川の流れをスムーズにするため、川の底に溜まった土砂を取り除いたり、堤防を改良する工事を進めています。異常気象の影響もあり、降る雨の量が毎年増えてきていますが、こうした工事の効果もあり、浸水被害は低減してきています。

ソフト対策は、例えば、川の状況をインターネットで公開したり、警報や避難指示をお伝えしたり、防災訓練を実施することで、早めに安全な場所への避難につなげていくものです。堤防などのように目に見えるものではありませんが、一人ひとりが日頃から防災を心掛けることで、大きなお金をかけずに命を守ることができると言えます。

具体的には、市民の皆さんが必要な防災情報を早く確実に入手できるよう、スマートフォンやテレビなどの様々な媒体を使って情報伝達を行う事業を展開しています。特に災害ハザードマップをはじめ、緊急防災情報をいち早く市民の皆様にお伝えできるよう、携帯電話やスマートフォンを利用した緊急速報メール、防災メールや公式LINE、インターネット環境がなくてもテレビのdボタンを押して、避難場所などが確認できるデータ放送、屋外にいる方に向けて、Jアラートと連携して自動的に起動する屋外スピーカーや防災ラジオ、FMスマイルウェーブが発信するラジオ放送など、様々な方法を活用しています。また、令和4年度からはリアルタイムで河川の水位や状況を確認できるシステムを導入し、今年度には高潮被害や津波被害を確認するため、刈屋漁港や梶漁港に監視カメラを追加で整備しました。ぜひ、市のホームページから防災情報を見てみてください。

これまで市が行っている 2 種類の防災対策である、いわゆる公助についてお話しましたが、この対策で万全というわけではありません。防災対策において、マンパワーに頼るところが大きく、例えば消防団の方には別に自分の仕事を持ちながら、地域における防災活動の中核として重要な役割を果たしていただいております。また、自治会や防災士など地域の防災リーダーさん、そして地域の皆さんと連携して行う自助、共助の充実も大切となります。一人ひとりが日頃から防災対策について考え、いざというときに適切に行動できることが、災害に強いまちづくりにつながると考えています。ぜひこの機会に、おうちの方と一緒に防災対策について考えてみていただければと思います。



《質問事項》

- ・少人数の学校への支援を増やしてほしい
- ・水泳の授業を市民プールで行いたい
- ・ジェンダーレスについての施策

《市からの回答》

- ・少人数の学校への支援を増やしてほしい
(矢野教育次長)

小人数の学校への支援を増やしてほしいという質問について御回答いたします。

小規模校においては、少人数で学校生活を送る上で、学習活動をはじめとした、諸活動できめ細やかな支援が期待できる一方で、具体的に御指摘を頂いた二つの課題以外にも、実際の学校生活においては、多くの課題があるのではないかと推測をしております。

本市におきましては、小規模の学校が抱える様々な課題の解消に向けた一つの対策として、次年度から厚陽小中学校において、本市に住所を有して教育方針に賛同するなど、一定条件を満たせば転入学を認める小規模特認校の導入を進めているところです。この制度により、児童生徒数が増え、厚陽小中学校の皆さんが多くの友人と関わり、充実した学校生活を送ることができるよう支援をしてまいりたいと考えております。

また質問として、具体的に挙げていただいている卒業アルバムについてですが、工夫次第では、小人数の良さを生かしたアルバムを作成することができます。例えば、真新

しいアルバムに行事があるごとに自分が気に入った写真を貼っていき、卒業時にその生徒だけのオリジナルの卒業アルバムが完成するといった取組、インターネットでの注文でフォトブックを作成している会社を利用して、生徒一人一人のオリジナルの卒業アルバムを製作してもらうという取組も考えられると思っております。

このように、学校課題の解決に向けての最善の解決策は、中学生の皆さんが知恵や工夫、アイデアを出して提案していくことだと思います。小規模校では、皆さん一人一人の提案が学校に届きやすいと思いますので、まずは皆さんの考えを学校の先生に届けてみてはいかがでしょうか。生徒会の皆さんの活動に行動に期待をしています。

それぞれの学校には、そこに所属している児童生徒が感じる様々な課題があります。そうした課題をどうやって解決していくか、それこそがこれから身につけていかなければならない資質能力と思います。こうした問題を小規模校だからこそ、生徒間で共有し、学校の先生や保護者の皆さん、地域の皆さんと熟議をして解決していく、その中に市の教育委員会として協力できることがあれば、もちろん協力してまいりたいと考えております。

・水泳の授業を市民プールで行いたい

(矢野教育次長)

水泳の授業を市民プールで行いたいという質問に対して回答いたします。

御質問頂きました厚陽小・中学校のプールにつきましては、昭和 43 年の使用開始から 50 年以上が経過した施設となっております。毎年度、市は学校と協力し、水泳の事業が開始される 5 月下旬から 6 月上旬にかけて、プールを衛生的に使用することができるよう、水を循環させ、ろ過する装置の点検、整備を実施し、また、その他の不具合箇所の修繕を行うことで、児童や生徒の皆さんが安全に授業を受けられるよう努めております。御指摘のとおり年数の経過による劣化が著しく、様々な箇所に不良が生じた等の連絡があれば、直ちに水の入れ替え、修繕等を講じているところです。

学校のプールにつきましては、水道の給水に相当の費用がかかることに加えまして、プール水槽の設備の改修に多額の費用を必要としますので、現在、この維持管理が全国的にも大きな問題となっているところです。

このため、市におきましては今後の学校プールの維持管理や使用に関しまして、御提案を頂きました市民プールの活用のほか、学校間の共同利用や民間事業者の活用を含め、全国の取組について研究を進めているところです。引き続き、関係者の御意見を聞きながら、それぞれの手法の実現可能性を検証した上で、各学校の教育課程に位置づけられた水泳の学習が実施できますよう、教育環境の整備に向けて検討を行ってまいりたいと考えております。

・ジェンダーレスについての施策

(藤田市長)

ジェンダーレスならびにパートナーシップ制度についてお答えをさせていただきます。

7 月 26 日からパリでオリンピックが開催されております。パリのオリンピックにおいては、「スポーツで結ばれた世界」、「多様性」、「環境保護」の三つを柱として、またスローガンであります「ゲームス ワイド オープン」、開かれた大会を表現した開会式において、国籍や民族、出身地にこだわらない様々な人が登場し、寛容な社会の実現と、多様性と平等を表したものとして大変印象に残ったところです。

人には年齢や性別、生まれ育った地域環境、考え方など、様々な違いがあります。こ

のような様々な違いをお互いが受け止め、認め合い、尊重することで、人々が自分らしく活動することができます。これがダイバーシティ、多様性の尊重ということになります。

本市におきましても、ダイバーシティを推進し、多様性を認め合い、その個性と能力を発揮できる社会を実現することが重要であると認識しております。

御質問にございました本市におけるジェンダーレスの施策といたしましては、誰もが尊重し合い、多様性を認め合う意識づくりの中で、ジェンダー平等の視点に立った市民意識の醸成を図ることに取り組んでおります。具体的には、男だから、女だからという性別の違いに関する偏見や固定概念、無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）、これらを解消していくこととしております。

今年の12月21日には、県と共同で人権ふれあいフェスティバルを開催することとしております。この人権ふれあいフェスティバルにおきましては、LGBTやパートナーシップ宣誓制度などに関する講演を行うことほか、人権や多様性などに関する周知啓発も行うこととしております。ジェンダーレスなどについて考える良い機会になると思いますので、ぜひ皆様方も御参加頂けたらと思います。

次にパートナーシップ制度についてのお尋ねでございます。今年の9月1日から山口県におきまして、性的マイノリティのカップルを事実婚に相当する関係であることを認める「山口県パートナーシップ宣誓制度」が始まります。これは性の多様性を認め合い、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現に向けたものであり、当事者の生きづらさの軽減や安心して暮らせる環境を整える取組であることを理解しております。本市におきましても、県のパートナーシップ宣誓制度と連携できるように調整を図ってまいりたいと考えております。

(矢野教育次長)

ジェンダーレスについての施策の中から、制服の見直しについて御回答いたします。

制服は、中学生が学校生活において、毎日身につけるものであり、着用するという意味だけにとどまらず、所属している学校への帰属感や誇りを与えるものであり、各学校の伝統や特色を反映、象徴しており、制服は中学生にとって重要な役割を果たしていると捉えています。

近年、社会の変化や人権意識の高まりなどから、全国的にも制服についての見直しが進められています。制服は学校の校則で定められているところであり、学校自治、校内の規律維持のため、それぞれの学校で決めることが重要であり、制服については学校が主体となって議論していただきたいと考えています。

中学生の皆さんであれば、生徒総会の場を活用して、全校生徒の意見を集約し、先生方や保護者の方の考えや力を借りて進めていくことができると考えています。また、山陽小野田市の中学校は全てコミュニティスクールとなっておりますので、地域の方の力も借りながら、学校運営協議会で話し合っていくこともできると考えています。

今年度、厚陽中学校の生徒総会において制服をテーマに話し合いが行われたように、自分たちの学校生活を自分たち自身で見直して、より良いものにしていこうという試みはとても大切なことだと考えています。こうした取組や学校生活に中学生自身の声を反映させ、協働することの大切さやリーダーシップの必要性を感じるとともに、自分の考えを周囲の人に伝える自己表現の場としても有効です。そして、自分たちで決めたことは自分たち自身で責任を持つという意識の醸成にもつながっていきます。

今回御質問頂いた制服の見直しに限らず、自分たちの学校生活を中学生が自身の手で

より良いものにしていく活動を通して、皆さんが達成感を味わい、社会への参画意識を高めていってほしいと考えています。



《質問事項》

- ・ 市政参画へのきっかけづくりの充実
- ・ ボランティア活動の推進のために必要なこと

《市からの回答》

- ・ 市政参画へのきっかけづくりの充実
(高松議長)

まず、議会への質問ありがとうございます。市政参画のさらなるきっかけとするために、議会に関する体験活動を実施してほしいということに関してお答えいたします。

直接的な体験活動としては、市内各中学校では2年生を対象に、毎年10月または11月に職場体験があると思います。これにおいて市議会を希望していただければ、市議会としては快く受入れたいと思っています。

この職場体験というのは、様々な事業所に行かれると思いますが、職業の現場を体験すること、そして生徒が希望の職場で働くことを通じて、職業や仕事の実際について体験をしたり、働く人々と接したりする学習と定義されています。もし皆さんが議会に職場体験に来ていただければ、議会のこと、そして民主主義について、優しく、そして時には厳しく体験をしていただきたいと思います。

また、議員と直接意見交換ができる場があります。いわゆる議会カフェ、通常は議会報告会と言います。我々の報告をする説明責任があるということで、市民の皆さんに対

して、議会で決まったことを報告しています。今は、お茶、コーヒーを出して議会カフェを行っております。この議会カフェは、議会の報告と意見交換会の2部構成になっております。市政や議会に関することなら何でも質問できます。そして、何でも意見が言えます。年4回、市内各所で開催しています。次は10月に開催される予定ですので、時間さえ合えば、会場でお待ちしたいと思います。さらに御要望があれば、議会が中学校に出向いて、皆さんと懇談会、意見交換会の開催も可能となっております。その際は、先生に聞いてみてください。

最後に市議会では、本会議、委員会があり、動画や資料をホームページに全て掲載しております。ホームページから入っていただければ動画を視聴できます。また、議会の広報紙「議論」という広報紙を発行しております。この中にも、何が決まったか、どういう議論があったかというのがあります。フェイスブックもしています。インスタも開設しています。フォローといいねをよろしくお願いいたします。

・ボランティア活動の推進のために必要なこと

(篠原協創部長)

御質問の中で、生徒総会の中で地域のために働ける生徒になることについての話をされたという紹介がございました。皆さんのような若い方が地域のために何かしたい、地域に貢献したいという思いで話をされたことにつきましては、大変うれしく思いますとともに、とても心強く感じました。

それでは一つ目の効果的なボランティアの募集方法について、お答えをいたします。

ボランティアとは、日本では無償の奉仕活動として行われるものも多く、それもボランティアの一つの形ではございますが、本来は、自発的な意思による行動のことと考えております。つまり自分の意思が大切な活動であると言えます。自ら進んで行動する気持ち、自分の活動をやりたいという気持ちが何よりも大切だと思います。

現在市内の中学生の皆さんには、地元の祭りのイベントの企画や運営、地域での清掃活動への参加など、いろいろな場面でボランティアとして御参加、御協力頂いていることを聞いております。そこに参加された方は、達成感や充実感などを得ているのではないかと思います。また、ボランティア活動に参加することで、自身の経験値も上がりまじ、スキルアップにもつながってくると思います。

ボランティア活動とは違いますが、今日の中学生市議会に参加されている中学生議員の皆様におかれましても、この貴重な体験を経て、確実に経験値が上がってくると思いますし、御自身の糧になっているのではないのでしょうか。

皆さんがボランティア活動に参加して実感した達成感や充実感を伝えることで、自ら進んで行動する気持ち呼び起こし、勇気が出ない人の一歩を踏み出すきっかけの後押しをする、そのような募集を行ってみてはどうかと思います。

次に市からのボランティア募集として中学生が何かできることがないかの質問にお答えをいたします。

山陽小野田市では、今年の4月1日からAスクエア内に山陽小野田市市民活動センターを開設いたしました。この市民活動センターは、まちをより良くするための活動に取り組む市民や市民活動団体の皆さんの知りたい、PRしたい、学びたい、相談したい、つながりたい、などの思いをサポートすることのほか、募集と参加の橋渡しをすることも目的としている施設です。

先日、市民活動センターでは、町のために何か活動したいという思いのある方が集まり、「山陽小野田コミュニティ・ミートアップイベント」を開催いたしました。このイ

ベントでは、参加者それぞれのやりたいことの思いを発表し、共有した結果、「レノファ山口を応援したい」、「セミナーや講座を開催したい」、「大きなイベントを開催したい」という三つのグループが誕生しました。今、グループごとに実現に向けての話し合いを続けているところでございます。

このように市民活動センターでは、何か活動したいという方の情報交換や交流も行っております。最初の質問にもありました募集の方法につきましても、より具体的なノウハウをお示しすることができますので、ぜひ、気軽に市民活動センターに遊びに来てください。皆さんと一緒にボランティア活動や市民活動への参加について考えていきたいと思っております。

(古川副市長)

議員さんが、地域のために働ける生徒、また地域のために何かしたい、地域に貢献したいということを述べられて、私が感じたことを申し述べたいと思います。

アメリカの大統領で 35 代大統領ケネディを御存知かと思いますが、44 歳で大統領になりましたが、2 年後にダラスで暗殺されました。ケネディが就任のときに演説したのが、「国が何をしてくれるかではなく、我々が国に何をするかをよく考えよう」という演説をしました。これは私が考えるに、ボランティアの原点だというふうに考えます。

そうした中で、今皆様方が自分たちに何ができるか、国のため、市の行政のため、小さな地域のために何ができるかという姿勢は、大変大事だと思いますので、このケネディの言葉を捧げたいと思いますし、これをやっていただきたい。

皆様方が一緒に頑張るといのが、今市長が掲げている「協創のまちづくり」につながるものだと考えておりますので、皆様方が持っていらっしゃるボランティアの精神というのは大事にしていきたいと思ひますし、どのようにして参画したらいいかというのは、市に御相談、また学校を通して教育委員会にも御相談していただけたらと思ひます。

【議長感想】

厚陽中学校 篠原 希美 議長

本日は貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。今日このような形で私たちの意見を市に提言することができうれしく思います。私たちの意見を少しでも、施策に生かして頂けると幸いです。本日は、市長様をはじめ、関係者の皆様、各校の代表生徒の皆さん、ありがとうございました。

埴生中学校 藤井 瑛慎 議長

本日は貴重な体験をありがとうございました。以前、学校で議場を傍聴させていただいたときに感じた緊張感を味わうことができたと思います。本日はありがとうございました。



日程2 講評

山陽小野田市長 藤田 剛二 様

皆様長時間お疲れでございました。講評というよりかは、感謝の言葉を述べさせていただきますと思います。

まず今回で5回目となりますが、山陽小野田市ふるさとづくり協議会の皆様方の御尽力で、本当にすばらしい中学生市議会を開催していただきまして誠にありがとうございます。それを受けて今日は各市内の6中学校から2名ずつ代表の方、そして立派に議長を務めていただきました篠原さん、藤井さんの活躍もあって全員で14名の皆様方が、それぞれ学校、学年、クラスでいろんな意見交換をし、深堀をして、いろんなテーマについて勉強されて、そして自分たちの意見としてこの場に立って、本当にすばらしい発表をされたということで大変うれしく、またありがたく思ったところでございます。一つ一つの内容については、私を含めてお答えをさせていただきましたので、これからしっかり一つ一つ精査をして、市政に反映できるものは反映していくということになるかと思っております。

過去4回のことでございますけれども、既に皆様方の御意見を市政に反映したものが5件ございます。そして現在、検討中の案件が6件あります。もっと数多くの御提案等を頂きましたが、4回の中で、11件については、今実施をしている、もしくはしたいというもので検討を重ねております。今日頂いた御意見ももちろんしっかりと精査をして検討していきたいと思っております。

今日は本当に数々の御意見や御要望、またアイデアを頂いたところでございます。お一人お一人が、自分たちの立ち位置の中でどんなことを課題に思い、どういうことをしたらこのまちがよくなるか、自分たちでこんなことができるのではないかとということ、自発的、主体的に物事を捉えていただいているということが本当に感銘を受けたところでございますし、これだけ立派な中学生が山陽小野田市にいらっしゃるということは、山陽小野田市の未来は明るいなということは今一度思ったところでございます。

そして今日私がお答えをさせていただいたテーマは、定住促進、ジェンダーレス、パートナーシップ制度ということについてお答えをさせていただきました。そこで共通して考えられることは、人口というのは地方の自治体にとって大変大きなテーマでございまして、人口増に向けてどこの自治体も頑張っている、でも中々やっぱ現状は厳しく、もし下がるとしても、その下がり幅をいかに低減するかということは今一生懸命やっているところでございます。それをした上でも、どうしても人口減というのが現状であるわけでございますが、そこにはやっぱ現実的な対応をしていかないといけないという視点も必要になってまいります。その中で山陽小野田市は何をやっているのかというのは、「協創によるまちづくり」ということを皆様方をお願いをし、市も進めております。協創というのは、全ての方々、ここにいらっしゃる中学生の方、市民、企業や団体の方々と一緒に、市の課題解決に向けて、またより良い山陽小野田市をつくっていくために、皆さんで努力をして進めていきましょう、またそれぞれに役割分担があったり、連携を深めたりしてやっていきましょうというのが、協創によるまちづくりでございます。

市民の方々の御要望もたくさんあることも承知をしておりますけれども、それを全部市がお金を出して、人をかけてできるかということ、どうしても制限があったり、時間がか

かったりというものが多々あります。そういったことを協創によるまちづくりの中で、皆さん方と一緒にやることで、よりスピーディーに、より皆さん方の地域に合った形で解決策があるのではないかという思いもございますので、協創のまちづくりを進めております。

定住促進については、そういう考え方もあったり、ジェンダーレス、パートナーシップ制度、LGBTQと言われる方もたくさんいらっしゃいますが、いろんな方と一緒にやっていくという思想が背景にあるということで、まさしく協創によるまちづくり、今日の中学生市議会もその一環であるかなと思っております。

長くなりましたが、最終的には中学生の立場の中で、山陽小野田市を深く考えて、将来のことに対して、大変前向きな御意見、そして行動力を持っていらっしゃるということを改めて感じ取ることができて、私自身も市長としてありがたく思っております。

今は夏休みでございまして、いろんなことができる一方で、宿題もたくさん出ていらっしゃるのではないかなと思います。今日の中学生市議会、我々も夏休みの宿題としてやれないかもしれませんが、しっかり実行にさせていただきます。ありがとうございました。



山陽小野田市議会議長 高松 秀樹 様

中学生議員の皆さんお疲れさまでした。まず竜王中学校ですが、資料をモニターに映し出して質問されましたよね。これは、議会が今から取り組んでいこうというところで、いろいろ議会事務局とどうして映したら良いのかということをお我々より先にやっていただいて大変ありがたく思います。分かりやすかったです。

次に、小野田中学校の皆さんは、よく通る声ではきはきと質問して、しっかりとした質問だったなと思います。お二人の学校生活が想像できるような質問だったです。非常によかったと思います。

次が高千帆中学校です。高千帆中学校は中学生ならではの、また若い世代ならではの質問、具体的な質問だったというふうに思います。特に1番目の「中学生の生活環境の充実」についてというところは、中学生目線で重要な問題であり、改善を要する部分というふうに思いますが、ちょっと執行部の答弁長かったですよね。私が聞いていても長

かったですね。ぜひ次回は執行部のほうに改善していただきたいなというふうに思います。

次が厚狭中学校です。この書面を通告書と言いますが、長文ですけど、分かりやすく通告書を作っているなと思っております。この中でも、道の駅の話や湾岸道路の整備というところは、よく調べて質問をされていらっしゃるなということで感心をいたしました。

次に厚陽中学校。これも厚陽中学校ならではの質問で、質問を聞いていると、非常に小規模校としての切実な気持ちを感じ取ることができました。我々議員も、今後厚陽小中学校のことにしても、執行部と色々な議論をしていきたいと思っています。話の中の卒業アルバムの代金が高いつて、想像もつかなかったんですけど、こういうことになるんだなという我々の認識を新たにしておかしたと思います。

埴生中学校です。先ほども申しましたように、議会への質問ありがとうございます。議会のことを、埴生中学校だけじゃなくて、皆さんよく知っていただいて、ぜひ皆さんが18歳になったら選挙権を行使して貴重な1票を投じてもらいたい。その後、ぜひ1人ぐらい議員になっていただけないかなと思って聞いておりました。

そして二人議長をされましたが、議長の運営のことですが、おそらく緊張されたと思います。しかしながら、貴重な体験、中々席に座ることのない、この体験を今後の中学生活、そしてその後の人生に生かしていただきたいと思います。

全体的に見て、皆さんの質問、しゃべり方を見ていて、本市の未来は非常に明るいなことを考えながら、市または議会に対し今日はお疲れ様でした。ありがとうございます



山陽小野田市教育委員会教育長 長友 義彦 様

通年であれば、長友教育長がこちらの席に座って皆さんの質問に対して答弁をしますが、今年は、諸般の事情により出席することができませんでした。その代わりと申しますか、この映像は、ユーチューブを使って配信をされており、教育長はそれをずっと別の場所で見えておりました。

皆さんの姿や声、思いというのは、必ず教育長に届いております。教育長からメッセージを頂きましたので、それを代読させていただきます。

皆さんこんにちは。議場で質問するのはとても緊張したことでしょう。緊張した中でもしっかりと発表できた人も、もう少し合わせればよかったなど反省をした人もいます。学校で見通し、実行、振り返りという言葉を知っていると思います。今日も質問する前は、目的、つまり見通しを持っておられたと思います。そして質問しました。終わってから、良いことも悪いことも、両方の反省が生まれたのではありませんか。ぜひそれをノートに言葉として残してください。言葉にすることによって、さらに深い振り返りになり、皆さんの心の成長となります。

さて、皆さんの質問は、学校など身の回りのこと、地域や市の魅力化のこと、子育てや防災など市の課題のこと、それから市政や市政参画のことなど、多岐にわたっていて、とても貴重な意見を頂きました。一生懸命考えてくれたことに感謝申し上げます。毎年様々な質問を考えて、いつもすばらしいなと思っています。こうして身近なことを考えられるようになってきているのは、学校運営協議会を中心に、地域教育協議会の方々と、皆さんが学校地域共同活動を行っていることが大きいのではないかと思います。特に地域行事にボランティアで参加することで、皆さんが様々な視点から考えられるようになったと思います。ボランティアは気づき、考え、行動する活動です。皆さんのアイデアや行動が地域行事を活性化する大きな力になっていると関係する方々もおっしゃっています。これからも自信を持って、地域の方々と一緒に活動し、自分自身を高めてください。

最後に、皆さんは、10年後、20年後の山陽小野田市はどのようなになっているのか、想像をしてみてください。未来の山陽小野田市に生きているのは、まさに今中学生である君たちなのです。今を大切に友達と先生たちと、保護者や地域の方々と一緒に笑顔と元気のあふれる山陽小野田市をつくっていきましょう。

令和6年8月5日 教育長 長友義彦
(矢野教育次長代読)

日程3 主催者お礼

山陽小野田市ふるさとづくり協議会 会長 大本 章男

市長並びに議長、講評ありがとうございました。非常に良い講評と思っています。ありがとうございます。それと副市長や部長さん、御多忙の中、これだけのいろんな質問に対する答弁を頂きまして誠にありがとうございました。最後に、主催者団体として議員の皆さんに申し上げたいと思っております。

今日のこの議会で、目的が50%達成と思っています。あと50%は何か。今日、各学校6校の質問事項や要望事項がありました。それを皆さんが学校に持ち帰り、皆さんでどういことができるかを考えてもらって、それは君たちだけじゃなしに、学校全体、例えば生徒会なり、いろんなどこで考えてもらって、それを実行していく。そして地域のため、または山陽小野田市のために多少でも結構ですから役立ててもらおう。これが中学生市議会の目的です。だから今日で終わったわけではなく、皆さんの仕事はこれから始まると思ってください。

ちょっと厳しいことを言うようですが、中学生市議会の本当の目的は、皆さんが意見を出して、どういことができるかを検討していただくことが本当の目的ですから、ぜひ忘れないようお願いいたします。本当に今日はありがとうございました。

